

●全国に誇る緑の回廊

樹齢百十数年。県庁前の宮崎市橋通東一丁目から東へ約百メートル。広い四車線の道路を覆い、緑のトンネルをつくる二十八本のクス並木は、県が全国に誇れる自慢の一つになっている。

楠並木通りに案内碑文が設置されている。それによると、クス並木は今の県庁舎が完成した翌年（一九三三・昭和八年）に旧知事公舎などに植えてあった二十八本を植えたものという。そして碑文では「南国宮崎にふさわしい全国に誇れる緑のコリドール（回廊）」と記している。しかし、このクス並木にはこのほかにもいろいろな説が伝わっている。

その一。「昭和八年、宮崎市内の造園業の島村五郎さん（故人）により、県立宮崎病院から移植された」

その二。「広島通の知事公舎と経済連にあったものを島村造園が移植。さらに戦後の戦災復興

事業として緑化運動が進み、学生アルバイトで大勢雇って、特別製の大八車で運んで植え、風情のある今日の姿となった」

その三。「まだ戦争のあとが残っていた昭和二十五、六年ごろ、県庁前の道路が復興事業で三十メートル拡幅されることになり、街路樹として何を植えるか検討された。結局、県庁南側の旧公会堂にあった二十三本のクスを移植することに決まった。現在植えられているのは旧知事公舎から移したものを含めて二十六本」

これらの説は地元紙、「橋通り百年あれこれ」（平成元年・宮崎市商店街振興連合会刊行）に紹介されている。さらに植物研究家の「移植されたクスは、それぞれ種類が異なる」という説もある。

このように諸説はあるが、今日の美しい楠並木通りが県民の目を楽しませ、親しみと安らぎ

を与えてくれることに変わりはない。

クス並木を使った催しとして、県民にすっかり定着しているのが一九八六（昭和六十一）年に始まった「楠並樹コリドール」。県民が憩い、交流し、文化に親しむ場とすることを目的に、楠並木通りを歩行者天国に開放、毎年春、秋の二回開いている。

同コリドールはクス並木をライトアップ、特設ステージでの音楽演奏などイベントを中心に、楽しい県民ふれあいの場になっている。これまでに三十二回開催、毎回、多くの県民でにぎわっている。県外から訪れた人もクス並木の素晴らしさに驚く。自然環境の創出がテーマの宮崎県にとって貴重な財産である。

三又 喬



県庁前クス並木。緑のトンネルは県民癒やしの場でもある